

第3回 (仮称) 生物多様性藤沢戦略策定検討委員会

日 時 2017年(平成29年)6月27日(火)
午後2時30分
場 所 藤沢市保健所3階 研修室

1. 開 会

2. 委嘱式

3. 議 事

- (1) 第2回検討委員会の議事録確認
- (2) 前回までの振り返り
- (3) 現状と課題の整理
- (4) 骨子案について
- (5) 今後の予定
 - ・今後のスケジュール
 - ・施策整理のイメージ
 - ・グループワークについて

4. その他

事務局 ただいまから第3回（仮称）生物多様性藤沢戦略策定検討委員会を開催いたします。

議事に先立ち、所属団体の役員の交代により退任される委員に代わり、新たな臨時委員への委嘱状の交付を行います。なお、臨時委員の任期は平成29年6月27日から平成30年3月31日までとなります。

（都市整備部長より新委員へ委嘱状交付）

事務局 新委員には初めての委員会ということで、自己紹介をお願いします。

委員 皆さん、こんにちは。6月1日付で前委員の後任として、所属団体藤沢地区運営委員会副委員長を仰せつかりました。生物多様性の検討ということですが、いろいろご指導を願えればと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

次に、本検討委員会の成立要件は、藤沢市みどり保全審議会規則第5条により、委員の過半数が出席とされております。本日は9名の委員のうち8名が出席ですので、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

また、本委員会は会議の記録のため録音や写真撮影をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

次に、資料の確認をいたします。（資料確認）

それでは、これからの議事進行は委員長をお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員長 それでは、議事に入ります。

本委員会は一般に公開となっております。傍聴希望の方はいらっしゃいますか。（1名入室）

傍聴者はルールを守り、傍聴をお願いします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員長 （1）第2回検討委員会の議事録の確認について、事務局の説明をお願いします。

事務局 第2回議事録については、事前にお送りしておりました、修正の申し出が2点ありましたので申し上げますと、6ページの委員名が載っておりましたのと、20ページの下から10行目「藤沢市総合科学展」を「藤沢総合かがく展」と平仮名に修正しております。この他に何かありますか。

委員 1ページの事務局の資料説明の4行目の「1項目は、」は、他と同じように「1項目目は、」と統一した方がいいと思います。

委員長 他にありませんか。

ないようですので、今、申し出のあった点を修正したものを委員会終了とともに、市のホームページに公開することにいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員長 次に、(2) 前回までの振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料2参照)

前回、「(仮称) 生物多様性藤沢戦略の考え方」をお示ししておりますが、例えば「生物多様性に対する認識不足」というものはどこに入るのかとか、この戦略は生きものを軸としてまちづくり計画にというようなご意見を反映して、戦略方針案として作成したものです。これが前年度の成果物であり、本市の戦略策定に向けたアウトラインになるものとお考えください。修正・加筆した部分は、上段の「国家戦略」と「愛知目標」から、「生きものを軸とした地域のまちづくり計画として戦略を策定していく。」ということを書き加えております。

その下の第1から第4までの影響の隣に、「第0の影響？」に「生物多様性に対する認識不足」の施策を考えた方がいいというご意見により追加しております。以上が戦略のアウトラインとすることをご確認ください。

委員長 ただいまの説明に対してご意見・ご質問がありましたらお願いします。

「第0の影響？」のクエスチョンマークは、いずれ考えるということかと思えます。

委員 「認識」という言葉について、知らないという意味もあると思えます。それとともに、「藤沢市は都市住民（消費者）」というのは、市内だけでなく市外にも生物多様性は影響を与えているということを理解してもらう言葉なのかと思えますが、一般的に生きものは大事であるということとともに、食生活とか我々の普段の生活も影響があるということを含めて認識不足として入れていくことが重要ではないかと思えます。

事務局 そのために「国家戦略」とか「愛知目標」を付け加えたのは、市だけではなくて、国内とか国際的なことも意識して、できることはやっていると考えております。

委員長 この辺は今後の議論の中でも出てくるかと思いますが、さらに調整はあるかもしれません。きょうは、とりあえずこういうことでご理解を賜りたいと思えます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

次に、(3) 現状と課題の整理について、説明をお願いします。

コンサルタント (資料3参照) ※策定支援業務受託者から説明

まず「現状」からご説明いたします。「自然的環境」については、前回、ご説明した部分もありますので、今回は省略させていただいて、前回、ご説明が不足していた「社会的環境」と、5月に実施した農業、商工、教育

に対して行ったヒアリングの結果を中心にご説明いたします。

「社会的環境」では、さまざまな基本計画、藤沢市の統計年報等の資料から整理しております。まず、「広域的状況」では、交通の利便性が高く良好な住宅都市であり、商工業も集積し、江の島、湘南海岸等の観光資源等に恵まれているといった状況です。

「人口の推移」では、昭和 30 年以降人口増が続き、現在も微増傾向ですが、将来的には少子高齢化が進行すると予測されます。「産業別の人口推計」では 1990 年代から減少傾向にあり、将来的には横ばいかやや減少傾向と考えられます。

「観光」では、中心的な産業であり、江の島及び湘南海岸における海岸レジャーが中心です。特に近年の傾向としては、海水浴客以外の利用が増加傾向で、利用者の利用形態としては日帰りの利用者が増加しています。

「産業」では、商業については県内有数の商業集積地として発展しております。周辺都市における相次ぐ商業開発により、最近では全体的に衰退の傾向がみられます。それについてはさまざまな時代の流れもあり、例えばインターネットショッピングなど新たな購買方法等も出てきており、そういった影響もある状況です。

「工業」では、高度経済成長期まで成長が続いていましたが、パブル崩壊後は全体に産業の空洞化等が生じており、現在では大規模工場跡地に大型商業施設が新たに形成される、あるいは研究開発施設が建設されるといった傾向や、住宅系への土地利用転換等が起きています。新たな展開として、生産拠点から研究開発機能の集積あるいは首都圏への優秀な人材の確保といった人材立地の側面も出てきています。

「農業」では、主要な農産物はトマト、キュウリ栽培、水稻等が行われています。販売農家における経営耕作面積は約 700 ヘクタール、市域の 1 割とされています。一番多いのは畑で 467 ヘクタールですが、いずれも年々減少傾向にあります。担い手不足等の問題も生じており、農業者以外からの新規参入等も積極的に進んでいます。

「水産業」では、藤沢市には漁業協同組合が 2 つあり、組合員約 90 名で、主にシラス、マアジ、ヒラメ、カマス、イセエビ等の漁獲があります。

最後に「市民活動の状況」ですが、藤沢市の特徴として市民みずからが地域づくりに参加する土壌があり、市民自治への取組が 30 年以上にわたって進められており、ボランティアやNPO団体等活動も非常に盛んであるという現状があります。

次に、「ヒアリング結果」についてです。ヒアリングについては、3 つの分野について、それぞれ 3 者から行いました。詳しくは事前送付の参考

資料のとおりとなっておりますが、その中から今回の戦略で課題になるような部分について、結果の部分で整理しております。まず「農業」分野については、ヒアリングにご協力いただいた3者は、それぞれ本市の北部、南部、中央部で農業を営んでいる方々から伺った結果となります。まず、後継者不足問題は、経営が健全であれば後継者は育ちますというご意見をいただきました。また、新規参入者に対しても、より入り込んでもらいたいというご意見もありました。

生物多様性に配慮した農業の手法としての「冬水田んぼ」は、ハウスが点在しているような農地の利用状況には馴染みにくく、普及が難しいというご意見がありました。また、農業者の活動として、境川流域の水田における中干しの時期に堰き上げをして生きもの調査に関するイベントをやっているというお話もありました。これは農業者の取組と県との協働事業でもあるというお話でした。さらに外来種の話として、飼料に起因するような今まで見たことのないような雑草が頻繁に出てくるという話、それから境川遊水地公園に外来種である亀の集積用として「アカミミガメポスト」が欲しいとか、俣野地区の農業では、農薬による生物多様性への影響の懸念ということで、除草剤の影響でアキアカネが少なくなったということなどから、農薬についての指導が必要だという話がありました。また、圃場整備によって水の利用期間に制限がかかったことで、早春期のカエルの産卵期に水がないため、今ではアマガエル等しか見られなくなったというような話もありました。

一方、よい面としては、農業の継続と関連して俣野にはテナガエビやスジエビ、ボウズハゼなどの自然が戻ったという話もありました。

次に、「商工」分野については、大規模製造業、船舶免許等代行業及び大規模小売店関係者3者からのヒアリング結果です。

「大規模製造業」の方からは、いろいろ取り組みを伺うことができましたが、工場緑化等を行っているとか、植栽木の高齢化、従業員の憩いの場がない、さらには樹種転換をしたいがどうすればいいかわからないといったご意見がありました。

かつて事業所内にビオトープをつくって生物多様性を高める取り組みをしたこともあったが、管理体制が整わずに撤去したことがあるということでした。また、事業所自体は地域の一員なので地域づくりを連携して行いたいという積極的なご意見もいただきました。

「船舶免許代行業」の方からは、藤沢は何でもそろっていて暮らしやすいまちである。また、観光事業として修学旅行生を他県からもたくさん受け入れているとか、観光資源が海、陸とさまざま活動が可能であるという

ご意見をいただきました。また、自主的な環境に係る活動として、海岸のクリーンアップなどの活動は継続的に実施しているというようなお話がありました。

「大規模小売店」の方からは、社内での取り組みということで、環境への配慮に関する取組として3Rを中心に、できるところでの環境配慮を行っている。また、社員への意識啓発等はやっていきたいし、これからもできるといったご意見をいただきました。さらに今回の生物多様性藤沢戦略の話をしたところ、街の中での役割、取り組みの構想として生物多様性の普及・啓発の拠点として場を提供することはできるといったご意見をいただきました。

最後に「教育」分野ですが、小学校の先生2名、中学校の先生1名、合計3名からヒアリングをいたしました。さまざまなご意見をいただいたのですが、例えば生きものを大事にしなければいけないということを学ぶことは、人権教育につながるとか、実体験を積ませる、風景を残す、感じさせることが一番大事であるといったご意見をいただきました。また、学校ビオトープについても多くのご意見がありました。

生徒が自然と親しむだけではなくて、「おやじの会」とか地域の方との協力関係が築けるといって幅広く効果的な取組である。具体的な地域との取組としては、1つは明治小学校で北側の水田を借りて「コメづくり」を行っていて、「考える」米づくりをやっている。この地域の象徴的な生きものとして学校水田で「ホウネンエビ」が確認できる。

南部の片瀬小学校では、総合的な学習ということで、地元の漁師の協力を得て、「ワカメの養殖」の体験学習をしている。

藤沢市の地域特性として、南北に長い地域で南の子と北の子では暮らしの環境が異なると。

野外体験は親のライフスタイルにも左右されると。

自然といっても必ずしも嫌いなわけではなく、好きな人はいるが、自然というと山や名勝地といった遠い自然をイメージするが、本来は泥臭い地元で足元の自然を知ることが最も大事である。

実例として明治小学校では周辺で見るカエルは「トウキョウダルマガエル」というように正式な名前を教えており、明治小の子どもは学校周辺の水田でカエルを見ると、ちゃんと「トウキョウダルマガエル」と言えるという話もあった。

次の部分は大人の課題でもありますが、藤沢市は過去から理科教育が盛んな歴史があり、教育文化センターが核の役割を担ってきましたが、時代の変化とともに最近は変わりつつある現状です。特に若い世代の教員が自

然や生きものに触れた経験が少ない、あるいは研修自体が少なくなっていて、それを子どもたちに教え切れないというお話もありました。これは教える側、大人側の大きな課題かと思えます。それから河川、海といったものはお子さんにとっては身近な自然ではなくなっているという現状の話もありました。引地川や境川は排水路機能が高く、近寄りがたい河川であるということで身近な河川とは言えないというような話でした。川遊びができるような場所、生きものが確認できるような場所は引地川親水公園に限られる。また、海は危ないという感覚があって、学習の場としては使いたいけれどもとても使えないといった話。また、江の島は観光地としてだけでなく、自然観察の対象として近代科学の発祥地ですので、非常に教育的な価値の高い場所であるという考えを皆さん、お持ちのようでした。これは新たな江の島の利用のあり方、あるいは価値のあり方につながるというようなお話をいただきました。

次に、2枚目に課題を整理いたしました。現状と課題は重なる部分もありますので、課題も含めて現状をお話した部分も多くあります。特にヒアリング結果については、先ほどお話ししたのと同様ですので、「自然的環境」と「社会的環境」について簡単にご説明いたします。この課題は、地域戦略で取り上げて解決していきたい課題という視点で整理しております。そして新たなまちづくり、暮らしづくりにつなげたい課題といった点で整理しております。

まず「自然的環境」については、緑地の担保性の高い緑地ばかりではないといったことが挙げられております。自然度の高い三大谷戸ということが前回委員会でも挙げておりますが、そのうちでも遠藤笹窪谷、石川丸山谷戸周辺などは、市街化調整区域に入っているものの、農業振興地域などの法規制がかけられていないとか、川名緑地は、特別緑地保全地区や都市公園といった法規制がないという現状もあります。次の「緑地の管理状況」では、特に焦点となっている課題としては、管理放棄による竹類（モウソウチク・マダケ）の分布が拡大しているということが大きな課題として挙げられております。次の「生態学的評価」では、人為的な影響により重要種（オカトラノオ、タカトウダイ等）が減少している。モウソウチクやマダケといった竹類の拡大ですが、藤沢ならではのというと、その他にトキワツユクサの拡大の問題も顕在化しております。そういったものとは別に、「特定外来生物」の視点からいきますと、それぞれの分類群でいろいろ確認されている種があります。例えば植物ではアゾラ・クリスタータ、オオフサモ。哺乳類ではクリハラリス、アライグマ。爬虫類ではカミツキガメ、両生類ではウシガエル、鳥類ではガビチョウ、ソウシチョウ、魚類ではカ

ダヤシ、ブルーギル、オオクチバスといった最近よく聞く特定外来生物が市内でも確認されております。

それを「生態系サービス」の4つの視点の①基盤サービス、②調整サービス、③供給サービス、④文化サービスで処理したのですが、それぞれの生態系サービスに影響があるというふうに整理いたしました。

次に、「社会的環境」ですが、「広域的状況」としては、現在、工場跡地の商業施設や住宅へ転換していることにより、土地利用の用途が混在し、近隣との問題が生じている場所がある。例えば工場跡地から住宅地ができて、工場緑地から「蚊」の発生が住宅地へ悪影響を及ぼしているのではないかという苦情があるという話などもありました。そして海岸では海浜の浸食が著しく、自然災害に対する防災性の低下が課題となっている。あるいは沿岸地域の住宅地の細分化により、屋敷林が減少するといったことが生じております。その他、人口、工業、商業等については、現状の部分でお話したとおりですが、全体的な傾向が課題につながっていることが挙げられます。農業も担い手不足とか農地保全、地産地消の推進などが抽出されました。「市民活動の状況」については、戦略を進める上で主体的に取り組んでもらえるような仕組みづくりや、連携方法の構築が戦略の中での課題になるだろうと考えております。

次に、産業の部分の大きな「観光」ですが、江の島、海岸域の利用は、これまでどおりであるとしても、藤沢の目的としては観光のあり方の部分も考える必要があります。例えば茅ヶ崎や鎌倉への通過地点としての利用だけでなく、藤沢の良さをもっとPRするような観光のあり方も考える必要があるというのが課題の1つです。また、かつては公共交通機関によるアクセスがほとんどでしたが、圏央道が開通し、車の乗り入れが増えたことから、渋滞や駐車場不足が現実的な問題として出てきております。また、2020年東京オリンピックや国を挙げてのインバウンド強化といった方針もあり、南部の江の島・湘南地域への観光客数のさらなる増加が見込まれる中で、交通インフラ的な課題、また新しい観光のあり方の課題があると考えております。「その他」として、先ほど認識という話をいただきましたが、それにつながる話ですが、日本の食料・エネルギー自給率の低さに起因する消費・経済活動の拡大による環境・生物多様性の負荷拡大は、都市地域に生活するみんなに関わる課題として大きく挙げられると考えております。以上、現状と課題の説明を終わります。

委員長 ただいまの説明に対してご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

委員 この「現状と課題」はどのように理解すればいいのですか。説明のあつ

たところの目次もないので、現状のところの中身と理解してよろしいのかどうか。

コンサルタント 戦略全体の目次案までは整理し切れていないので、今回、お示しできておりません。

委員 目次は構わないけれども、説明を聞いていると、ある程度時間をかけて戦略をつくっていくわけですが、現状、課題というのは最初に整理しやすいところで、それを今、説明されましたが、事実を事実として数字で押さえないと、それがどうなるかがわかりません。例えば何かが増加しているとか減少しているというところが、本当なのかということがわかりません。例えば観光の課題として、知名度がある茅ヶ崎や鎌倉への通過場所になっているという話でしたが、ちなみに茅ヶ崎と藤沢の観光についての数値はいかにするのですか。

コンサルタント 藤沢の数値はありますが、茅ヶ崎の方は押さえておりません。

委員 藤沢の方が一桁多いので、ここがちょっとおかしいです。もちろん鎌倉は多いけれども、茅ヶ崎に比べて藤沢の方が江の島と海岸線に海水浴場が4つもあるので、圧倒的に多いです。農業のところでも高齢化が進んでいるし、担い手の問題もあるけれども、具体的にどのくらい問題があるのかわかりません。実は藤沢市の農業者は頑張っていて、北部の方はいろいろな取り組みをしている農業者がいるので、本当のところ、藤沢は何が問題なのかということをもっとはっきり書かないといけないと思います。逆に生物多様性の視点から言えば、ここに書き込まなければいけないのは、これは神奈川県と共通ですけれども、水田面積が激減して畑地あるいは施設栽培に転換することが水辺性の生物にインパクトを残していることです。例えばその経年変化をグラフで示せば、そのこと自体農業従事者は当然効率や生産額を上げるためにやむを得ないところでもあるけれども、そのことに起因して水質の悪化の問題も出ているので、きょうの整理の位置づけがよくわかっていないけれども、そういう数字に基づいて議論をしていかないと、その後の展開がミスリーディングになってしまうのではないかというのが感想です。

コンサルタント 定量面が足りないといった部分については、今後、資料できちんと提示させていただきたいと思います。資料が不足していて申しわけございません。

委員長 記述がおかしいというお話ですが、私もそう感じるところもある。例えば観光の課題の3つ目の最後の方の「これらへの対応策を講じることが必要である。」というところの、これらとは何を指しているのかわかりません。膨大な資料をこれだけの文章にするのは大変だと思うけれども、意味

はきちんと通じるようにしないと、間違って解釈されると困るので、委員がご指摘のバックデータが最終的な成果品になってくるので、その読み込みの資料もいずれは出てくると思うけれども、これはとりあえず委員会用と認識していればいいということですか。

もう1つは何をするのかという大きいご質問だったと思うけれども、僕の解釈だと、これはまちづくりという視点が大事ですよという前回の委員会でのご指摘で、その考え方を入れ込まれたというか、まちづくりというところを意識して出てきたと思います。その上にさらに生物多様性の視点からもう少し盛り込んだものを入れていかないと、何のためにつくっていくのかという意味がわからないと、ただ、整理するのではなくて、何のために整理をしていくのかというのをきちんと認識した上で整理していかないと、使い勝手が悪くなってしまうのはもったいないという意味ではないかと思います。

委員 それぞれきちんとデータを示して文章化するにはとんでもない分量になってしまいそうに思ったので、今、委員長がおっしゃるように、いろいろところが生物多様性に関わってくるので、その広がりはどう表現するのかというのもう1つの課題だと思います。だから、今、ここに書かれているそれぞれを越えていくみたいなことをするのか、何をすればいいのかと思ったのですけれども、例えば商業の課題のところに「周辺都市における大型商業開発による消費者の流出」とあるけれども、こんなことはどこの自治体でもこんなことは書けるけれども、そんな努力をこれからするのかと、それは生物多様性と関係がないような気がするということです。

事務局 総合計画がバックデータのつくりになっておりまして、ここから生物多様性の視点というのは、おっしゃるとおり浮かび上がってこない部分もありますので、そういうところを重点的にもう少しバックデータを拾ったりして、現状の整備もし切れていない部分もとりあえず拾ってみようという感じになってしまっているんで、もうちょっとメリハリをつけた形で、大事なところは補強していきたいと思います。この後に説明する方針の中で、もう一度委員の皆さんからご意見をいただいた上で、現状と課題についてはもう少しメリハリをつけた形でつくっていきたいと思っております。

委員 商業と観光のところをフォローする形ではないけれども、一部商店街の衰退、周辺都市における大型商業開発の消費者の流出というのは、結構大きいと思います。消費者は辻堂のテラスモールには行かずに、横浜方面とか、北部の御所見や長後の人たちは綾瀬や海老名に行っています。南部だとテラスモールとか湘南モールフィルに行くけれども、この差が意外と定

量的に取られていないかもしれないけれども、これを読んだときに北部のことなのかなという感じがしました。

それから観光のところでは、知名度のあるところでは、正直なところ、鎌倉、江の島、茅ヶ崎なのです。藤沢というのは余り出てこない。江の島って鎌倉だとずっと思っていたが、藤沢なのですねと言われたことがあります。そういうことから私は藤沢のどこと意図的に藤沢をつけるのは、藤沢という認識が高いのか、疑問に感じるわけです。藤沢の知名度は余り感じていなくて、それより低いという認識で読みました。多様性という視点の中で藤沢が何なのかということでもう少し見ていかなければいけないのではないかと認識はあります。

委員長 まちづくりの方向性はおっしゃるとおりだけれども、それと生物多様性をどうリンクさせるかというところを注意していかないと、そこが基本計画と考えてしまうということになると思います。

委員 資料2の方に、生きものを軸としたまちづくり計画というのがあるけれども、前回の検討の中で第1の危機、第2の危機、第3の危機、第4の危機のうち2と3を中心にしていくという話があって、きょうの「第0の危機」も含めて検討していくという方向性が出てきたと思いますが、それに対してここに出てきた課題がどうリンクするのかというところを整理していただくことが1つあると思いました。「現状と課題」の部分と整理されている部分があまり合っていないような気がするので、そこはご注意くださいと思います。

特に「第0の影響」については、ヒアリングの方の課題にはほとんど上がってなくて、その他の部分で日本の自給率の低さに起因するというのは課題として入っているけれども、生物多様性の認知度が低いとか、生きものに触れ合う機会が減っているとか、そういう理解の部分の課題についても、参考資料のヒアリングの部分を見ていると、そういった意見もちらほら出てきているように見受けられるので、そのあたりを抽出していただいて、課題として出していければいいのではないかと思います。理想的にはアンケートとかの結果が過去にあれば、それを引用することもあると思うけれども、前回の話の中では生物多様性を知っているかというのはないにせよ、そういう調査を行ったという話もあったかどうか覚えていないのですが。

事務局 ヒアリング対象者とか「工場等環境緑化推進協議会」などにアンケートを取っているのですが、あまり回答率がよろしくないとか、認識不足の部分は、国家戦略の方ではいろいろ数字が出てきておりますので、冊子の方ではそういうところを用いていこうかと考えているところです。

委員 おそらく、認識不足とか教育のヒアリングの中でも出ていたけれども、先生方も教えにくいというような話も出ていたと思うので、前段で出てきた4つの危機と第0の危機も見ながら課題として整理をしていただければと思います。

事務局 今回、農業、教育関係でヒアリングをした結果、3者での共通の課題というのが、例えば生物多様性の用語が難解であるとか、愛知目標を知らないというのは各分野で出ましたし、南北の差というのも出ましたので、そういう分析も引き続きデータとして活用しながら施策につなげたいと思っております。

委員 資料を読むと、そういう認識のところの課題がかなり多かったように感じたので、藤沢市の特性からしても居住者の生活やまちづくりの視点から言っても大事になるところなので、丁寧に見ていただければと思います。

委員 「第0の危機」に関連して、今、関わっている港区でも2020年に向けて認知度が8割になることを短期目標に掲げて、今、その中間見直しをしていますが、それには前にアンケートをしていて、6割弱だったので、8割は無理だろうと委員会ですべて言ってしまったのですが、それをどういうふうにするのかを考えたときに、事実に基づいて何らかの施策なりを考えなければいけないと思って、昨日も委員の皆さんからどういう年齢層に言っていくのか、知らないと言っているのは若者なのか、年配なのか、男性か女性かとか、前回のデータがあるはずなのですが、そこまでやっている余裕がなかったけれども、今、ちょうどアンケートをやっている、それが多分次回の委員会に上がってくると思うのですが、そういう意味で言うと、今回、わざわざ特出しして、藤沢市でそれを扱うというのは挑戦的でいいと思うけれども、本当にそうなのか疑問が残ります。もしかすると藤沢市は意識が高いかもしれないので、何も無い状態で、もちろん国がそう言っているというのはあると思うけれども、これを次のステップとして次回ぐらいにそれに対する施策なり計画を立てるかという話になってくると思うのですが、どこに何をやるのか、全くわからないというか、よくあるイベントをしましょうとか、広報としてビラをいっぱいまくとかというようになってしまうような気がしてちょっと心配だけれども、今からアンケートは難しいかもしれないけれども、最初の戦略で次に見直しをしていくことを考えるのであれば、何らか客観的な事実を積み重ねていくことが大事ではないかと思えます。もしアンケートをされていて、それがうまく使えればいいし、そうでなければやはり取っておいた方がいいのではないかと。一番お金のかからないインターネットを使う方法でもいいと思います。

事務局 少し先の実施になります、日大の学生さんが、環境フェアでアンケー

トを取ろうという計画があるということは以前から聞いていますので、こちらを活用させていただければとも考えています。認知度については、既存の資料の中である程度使えるのではないかと思っていたのですが、現状の部分の数字については、もう一度事務局の方で再整理をさせていただきたいと思います。

委員長 お二人から貴重なご指摘をいただいておりますので、もう少し詰めていただきたいと思います。

委員 ちょっと違う話ですが、今、関西の方で「ヒアリ」とか「アカカミアリ」とか外来生物で人間に危害を与えるものに対しての社会的関心が高くなってきていますが、「ヒアリ」というのは咬まれると最悪死に至る外来生物で、いろいろな形でニュースでも報道されていますが、今年、来年以降、この話題の関心が全国的に高まる可能性があるのではないかと思います。特に、外来生物については課題のところで幾つか挙げているけれども、実際に侵入した場合、対応されるのは市の環境担当の部署がメインになってくるとは思いますが、その辺の整理はどうなっているのでしょうか。特に、人に被害が及ぶものについてはどういう対応を取るのか、どういう考えがあるのかをこの機会に少し注意しておくことも大事ではないかと思いました。

委員 テレビで池の水を排水して「コイ」とか「ブルーギル」を捕獲したとか、在来種がどんどん減ってきているというニュースをやっていたけれども、その辺の対策も必要かと思えます。

委員長 去年は「蚊」の問題がありましたね。

事務局 庁内で行っているのは「デング熱」等を発症させる「ヒトスジシマカ」について、全庁的に取り組んでいるぐらいで、今の「ヒアリ」の関係は環境部になると思いますが、まだ、その情報は入っていないのですが、対応策は考える必要があると思います。

委員 「第0の影響」として、一般の方にも正しい情報を理解していただく意味でも、現状の課題として整理しておくことは必要だと思います。

委員長 リスクの問題ですから、なければならぬで済むわけですので、よろしくお願ひします。

他にありますか。

委員 資料を見ると、藤沢市の地域は南と北とに分かれていて、それによって親の考えも、あるいは様々な面でも違うということが、どの部門でも見えてくるので、藤沢市はそういうものだということで、現状と課題が挙げられていますが、ヒアリングの方に貴重な意見が入っていると思うので、それにも重きを置いて戦略を練っていくことが大事ではないかと思えます。

- 事務局 ヒアリングについては分厚いものをお渡ししたのですが、それをどうまとめようかと悩んだところなので、皆さんにお渡しして、逆にご提案をいただければと考えていたのですが、ご指摘の部分の扱いについてはもう少し工夫したいと思います。
- 委員 今回のアンケートからも見えてくるのは、理科的な部分なのですが、そうではなく、小中学校の国語でも理科的、科学的な文章が取り上げられています。葛飾北斎の絵を見ていくと、江戸時代の風景には樹木が少ないことがわかります。それは生活に材木を使うから山の木が今のように豊富だったわけではないことの表れだと推察できます。社会科の中でも勉強できるし、家庭科の中でも消費者がどういうふうに生物多様性の中で生かしていくかという項目があるので、理科的なものだけではなくて、例えば国語と理科がタイアップする、あるいは数学と家庭科がタイアップするというふうに教科を横断的に、総合学習を含めてやっているのです、理科的部分以外のところでも教科として生物多様性に取り組むことができるということ、戦略の中に記載してもらえるとよいかと思います。教科の中で横断的に対応できるという認識を踏まえ、これからの課題として取り組んでいただきたいと思います。
- 委員長 今のお話はクロスカリキュラムのことだと思うのですが、お子さんたちへの教育の面でもっとこういうことができるということが何かありますか。
- 委員 例えば家庭科の中で裁縫とか技術家庭といったほかに、消費者活動という中で物を買うとはどういうことなのかというところがあります。ペットボトルにも軽くてクシャクシャと潰せるものと、潰すのが大変なものがあります。子どもたちには環境にどういうものがあるのか、買って来的时候もどういうものがあるのかというところで、環境にやさしいものとは何かを考える授業が行えます。それから美術科では夏の課題として環境に関するポスターを描いて出すとか、美術と理科がタイアップして環境に関することもできるということ子どもたちもわかるわけです。それが総合学習にも生かされてくるので、理科とは限らず、すべての教科の中で生物多様性について子どもたちが取り組んでいくことができるのではないかと思います。
- 委員長 今のお話は教育の分野ですが、知らないところがいろいろあるということですね。だからこそ、この委員会には農業や商業やいろいろな分野の方がおられるわけですが、こういったことがヒアリングの中では出てきますか。
- 事務局 3者における共通意見としては、藤沢は大変暮らしやすい街であるとか、

江の島は生物多様性の面でも大変大事であるということはどなたもおっしゃっています。そういうことから生物多様性は、いろいろな分野に横串が刺させる戦略ではないかと考えています。

また、学習のところで国語とか図工、生活に関連して自然の恵みと防災の視点での意識づけが必要ではないかと考えますので、参考にしながら検討していきたいと思います。

委員 北部の方の生徒たちが江の島に行って、東側の磯で学ぶ機会として、海洋性の植物について子どもたちや先生に話をすると、江の島の大切さが学校の中で認識されているという事例はあります。

委員 教育の面で言うと、人口 42 万の都市に博物館がないのはおかしいと思います。子どもたちが身近に感じられる場所があれば、そこから興味がわいて、江の島の植物を見に行ってみようとか、自分の知らなかったことを知ってみようというきっかけが生まれると思うのです。それについて身近に感じられるものが必要だし、これは何かと疑問が出たときに、それに答えられる学芸員のいる施設が必要なのにそれがないので、日大の博物館に頼っている事情があります。ヒアリングからもわかるように、やはり市にも博物館は欲しいという思いを私は 30 年間持ち続けています。

委員長 今のお話などは今後の施策の参考になると思います。ヒアリングの中にもヒントになるようなことがある気がするので、教育だけでなく商業も農業もあわせて、もう一回検討してみてください。

この件はよろしいでしょうか。もし言い足りないところがありましたら、事務局の方に申し出いただくとして、先に進ませていただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員長 次に、(4) 骨子案について、説明をお願いします。

コンサルタント ただいま「現状と課題」の整理が不十分というご指摘があったところで、先に進むのは恐縮なのですが、現段階で整理をしているところをご説明いたします。(資料 4-1 参照)

多岐にわたる現状と課題を「藤沢市の内部要因(市でコントロールできる要素)」を「強み、弱み」に分けて整理し直したものに、さらに藤沢市の努力では変えられない部分(外部要因)を書き合わせて整理したものを SWOT 分析という方法で整理をしてみました。藤沢市の強み、弱みには自然環境、産業、市民、暮らしを挙げております。これも定性的ではありますが、「強み」としては自然環境の中核として三大谷戸があるとか、自然環境の固有性が高い江の島、市街化区域に生き物が利用できる市有山林が残っている。一方、「弱み」は何かというと、外来草木の侵入や竹類の拡大があること、事業地内の樹木の老齢化といった市街地の緑の質の低下

が出ていることなどが挙げられます。

同じように、産業、市民、暮らしということで整理したのが強み、弱みです。

左側の外部要因では、「機会」、「脅威」に分けていますが、それぞれの外部要因がバックアップになるような、プラスに利用できるようなものを「機会」として整理しております。例えば市の計画や制度を挙げています。一方、「脅威」としては不可抗力のようなところ、社会的な変化といったところを挙げております。そして強みと脅威を掛け合わせて見てみるというのが、中段の「停滞回避のための課題」になります。これは強みを生かして脅威にチャンスを与えるような形として挙げられるものを整理しております。例えば「8. 地域で維持する「農」の環境」では、強みの中で農地・農業の部分で生き物が利用できる、まとまりのある農地があるというのを「強み」として挙げております。農地ですと、プラスの面があります。それに対して「脅威」では人口減少あるいは少子高齢化はあるけれども、強みを生かしながら農の環境をつくっていったらいいのではないかといいことで課題として整理しております。縦横で考えてまとめた課題として、下4つの枠の中に1から11で整理しました。これが資料4-2の「課題」として挙げているものと同じになります。(資料4-2参照)

この課題を今後、戦略の中で施策として解決していくために再検討して整理していく最初の段階と考えています。資料4-1で出た課題は11本で、それぞれの課題を解決するためにはどういう方針で解決していくか。生物多様性の保全・利用といった視点で、どういう方針で解決していくかといった場合の大きな方針としては、この真ん中の5つを挙げたわけです。

「方針」については、これまでの委員会でもご意見をいただいたキーワード、今回の藤沢の戦略では特性の中の「啓発」、「協働」、「経済」といったものを組み込んだ形で「方針」としてしております。方針の1つ目の「暮らしのなかで生物多様性を感じ大切に育てます。」は、啓発を意識したものであり、生物多様性の主流化という今一番守らなければいけない部分の話も組み込んで立てた方針です。方針の2つ目の「多様な人材が協力・活躍できると仕組みをつくります。」は、「協働・人材育成」といった視点で挙げております。3つ目「谷戸・川・海・農など残された大切な環境を市民で守り引き継ぎます。」は、「守る」といった視点で入れました。4つ目「地域資源を最大限活かし、市内の小さな循環で豊かな暮らしを創ります。」は、「活用する」というキーワード、あるいはこれまで出ていた「経済」という視点で方針としております。5つ目「暮らしのなかに生きものが利用できる場を創ります。」は、「つくる」、「今あるもの」、「よくする」とい

った視点で挙げた方針です。

この資料 2 枚で今進めておりますが、課題の整理とともに大きな施策をつくっていく上での「方針」として考えているところです。以上です。

委員長 現状と課題をもとに今後の方針・施策を、今の説明の方向性で進めていきたいという提案だと思いましたが、これに対してご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

委員 説明のあった 5 つの方針は、大切に育てるとか、何々を創るとか、きれいな文章になっていますが、この中身はこれからの課題だと思いますが、これがどのように発展、進展していくのかは、この文章からは見えません。どういう力が加わって、どのように変化していくのかをもう少し具体的にしていかないと、文章だけには収まらないと思います。

事務局 方針の部分は、今年度中に戦略をつかって、冊子になるのは来年度上期を考えています。文章だけではないかというお話ですが、具体的には次回以降、方針に施策がぶら下がりますので、施策をまとめたのが方針であるご理解いただければと思います。

委員 例えば 1 つ目の「生物多様性を感じ大切に育てます。」というが、生物多様性に向き合っていくのは誰なのか。今までのところは、市民ボランティアが多く関わっているが、それだけでは力が足りないのも、これからはそれ以上のものを考えないと、印刷物だけになってしまうのではないかの危惧を感じます。

コンサルタント 関わる主体については、これまでそういった形でお出ししていないので、施策の整理と一緒にお示ししたいと考えています。市民一人ひとりが関わる主体になるということもありますし、学校や地域ということもありますが、今、主体が全く見えない形になっています。

委員 今までの藤沢市の施策ではボランティアに頼っている部分が多いので、ボランティアというものをどういうふうと考えているのか。例えばベビーブームの人たちが退職して 60 代後半、70 代になっているけれども、まだまだ元気な人たちを活用することを考えていたとすると、どんどん少子高齢化になってくるから、それではいつの日か続けられなくなると思うので、どういうところでどういう活動をしていったら生物多様性が守られていけるのかを考えていくべきです。20 年、30 年のスパンで考えるとどうなのかということです。

委員 先ほどからいろいろ意見が出ているけれども、つながりとしては、資料 2 で示している戦略は、全体の考え方の整理だと思うのですが、「現状と課題」はアンケートの中やヒアリングから来たもので、これが若干どうなのかという意見が出ていたけれども、これが資料 4 につながるということ

ですか。

コンサルタント はい。

委員 いろいろな言葉が出てきているけれども、資料 2 に「戦略」から「戦術」へ移行していくイメージ図があるけれども、今回、整理した資料 4-2 の「課題」はどこに当たるのか、「方針」はどこに当たって、「施策」は基本的な考え方として戦略とか戦術として出てくるのでしょうか。

コンサルタント 「施策」以降に出てきます。

委員 方針と戦略は違うということですか。

コンサルタント はい。

委員 方針があつて施策があつてその後にもまた戦略が出てくるのですか。私のイメージだと、課題を整理したときに、方針はあつてもいいような気がするけれども、次は戦略が来て、次に具体的な戦術が来て、戦術は普通、取り組む事業とか内容を言っているのかなと思っているのですが、そういう理解でいくと、戦術と戦略はどこでどういうふうにつながっていくのかがわかりにくいです。資料 2、資料 3、資料 4 と来たときに、資料 2 のところに戻っていくのかと思つたら、また、違う言葉が出てきたので、ちょっと理解し難いのですが、計画になったときに課題、方針、施策、戦略・戦術という形で並ぶということですか。

コンサルタント 市としての戦略は資料 2 の一番下の「具体的施策」に戦略、戦術も含めて冊子としての戦略となります。資料 4-2 は「方針」が資料で言う施策の方向性にある「戦略」に該当するとご理解いただければと思います。その先にぶら下がってくる施策は、資料 2 で言うところの具体的施策、課題解決するための具体的な戦術になります。

委員 施策の方向性が戦略で、具体的施策が戦術で、ここで言う施策は資料 4-2 で言うとどこになるのでしょうか。

コンサルタント 資料 2 で言うと、一番下の戦術 1、戦術 2 と書いてある部分ですが、これは用語を統一した方がいいかもしれません。戦略イコール方針というと、それでいいのかどうかは皆さんに確認したいところなのですが、地域戦略を進める上での「戦略 1」というのが方針 1 と思っていただいて結構です。

委員 言葉を統一した方がいいということなら、構成を変えた方がいいと思います。具体的な戦略を練るためには方針が必要だということです。その前に方針があつてもいいですし。何も 1 つにする必要はないけれども、同じような用語を使っていった方が見やすいのではないかとことです。

もう一点お聞きしたいのは、課題の整理は、資料 4-1 は資料 3 から来ているということ、整合性があるのかどうかということ、そうだとした

上で、成長への課題というふうに整理すると、強みとか弱みに対して成長する課題が、何となく目で整理したものに対しての比較をしてみた方がわかりやすいのではないのでしょうか。上に書いていることと下に書いていることが似ているようで「ごちゃまぜ」になっている感じがします。例えば自然環境で云々と言ったときに、うまくリンクしているものもあるけれども、大部分が「ごちゃまぜ」になっているところがある気がします。であれば、成長のための課題を整理するために、強みとか弱みを改めて整理しながら、整合性を取ると、上と下のところは、せっかく整理していったものが一つひとつ頭に入ってきやすいように、より具体的に何をどうしていくのかというのがわかりやすいのではないかと思うので、参考にしていただければと思います。

委員 ご指摘があったように、資料3の整理が何のためにやったのかがはっきりしないからだと思います。具体的にどうすればいいのかという点で上の資料をまとめ直してもらったものをここに並べれば、このやり方でもいいのではないかと思うのですが。アイデアとしては、1つは先ほどのクロスカリキュラムではないけれども、カリキュラムをプラス商業なり、農業なり、生活なりというのを生物多様性のクロスという考え方としてもらえばいいと思います。生物多様性の状態をきちんと整理するべきです。もう1つはクロスに関わりという部分が見えるような形にしてもらって、その強み、弱みをまとめた方がわかりやすいのかなというのが私の提案です。

コンサルタント この資料に至るまでいろいろな資料の整理をして、うまくいかないところもありまして、ちょっと整理がし切れていないところがあると思います。

委員 例えば自然環境調査でいい生物のいる谷戸が残っていると、それは生物の状態の事実としてあるので、その強みは書けると思うけれども、人との関係という部分での強み、弱みもあるのかなという形になってきて、そのときに商業と生物多様性がどういう関係にあるのか、農業とどうなのかという部分を「見える化」して、そこに対しての弱者という形だと、すっきりいくのかなと思ったわけです。先ほどの美術と生物多様性の話とか、国語と美術をそれぞれのなりわい、あるいは人々の暮らしに置き換えればいいかなという感じです。

事務局 生物、自然、強み、弱みと人との関係、そこに農業、経済を縦軸に置くというイメージですか。

委員 暮らしの中に生物多様性があって、現在、こういう関係があるよと、それを将来、どう改善するのというのが個々の施策に対して、関係を密にするのか、あるいはもっと豊かにするのかというのが1つの指標になるのか

なというアイデアです。

委員 「大型商業開発に消費者が流出している」というのが「弱み」として出ているが、この文言を商工会議所としてとらえたときに、これが生物多様性の社会をつくり出していく上で、何が弱みなのがわかりません。生物多様性戦略をつくる上での課題というのを整理して書かないと、確かに商業として、北部の人は他市に消費者として流れていくのは消費者動向かもしれないけれども、それが生物多様性藤沢戦略において何が課題なのかということが、ここに書かれていないので、このままストレートに来ると、この弱みを克服するための生物多様性戦略に関する補強のための課題が流れとして見えてこないと思うので、もう一度順番の整理をするとわかりやすくなるのではないのでしょうか。多分、整理された方たちの頭の中にはそのイメージがあるでしょうが、それを全部書けないので、整理しようとするがゆえに肝心のところが抜けているのではないのでしょうか。それがだんだんと整理されてきた言葉がピックアップされて次のところに進んでいってしまうと、本来の生物多様性の云々というのが見えにくくなっているのではないかという感じがします。

委員長 今のお話は、資料3を再検討したのを資料4に反映させる。そのときに縦軸、横軸をマトリックスの関係で入れ替えてみて、検討した方がもっとわかりやすいのではないかというアイデアだと思うので、その辺をやってもらわないと何とも言えません。

委員 中身の整理はこれからされると思うので、インプットしておかなければいけない情報として4点ほどお話ししておきたいと思います。1つは資料4-1でお話すると、「機会」というところに外的要因について書かれていて、1つは先ほど議論になった認知度なども含め、藤沢市は国連の持続的開発目標：SDGs（エスディーズ）への対応はされているのでしょうか。企業も自治体もこれからかなり頑張らないといけないのですが、真中にも当然生物多様性の項目が入ってくるので、ここで言う環境基本計画、あるいは環境審議会などで扱うと思うけれども、その辺と連携して認知度を上げるようなことは展開していけると思うので、SDGs（エスディーズ）についても最初の段階で研究するのがいいのではないかと、そこがちょっと抜けていると思います。

2点目は、ビオトープネットワーク基本計画は、藤沢市は早い段階から持っていたし、さらに総合計画の中でも言及していますが、その中身が消えてしまっているように思うので、あれが何だったのか、何ができて、結局何ができなかったのかというようなところをしっかりと踏まえなければいけないと思うし、もっと誇っていいと思うので、前段の部分でも、あん

なすばらしいものを 2000 年の速い段階で持っていたことは、重要なのでしっかり書くべきだと思います。

3 点目は、先日、日大で造園学会の大会あったときに、「立地適正化計画」を藤沢市はつくられたばかりですが、その立地適正化計画と生物多様性について国は何の関係もないと言っていますが、それが関係してくるのは「停滞回避のための課題」の防災・減災ですけれども、立地適正化計画の中で独自の地域指定として津波浸水ラインを指定されています。逆に人口が減る可能性が高い北部の方で、「第 2 の影響」をどう考えていくのかにもつながってくると思うので、「立地適正化計画」にリンクする地域戦略として藤沢市が名乗りを上げるといいと思いますので、この外部要因のところにぜひ入れるといいと思います。

4 点目は、「11. ライフスタイルの見直しによる持続可能な社会の創出」というのが一番大事だと思います。ここにリノベーションとかエシカルというキーワードも書かれています。多分、一般の人がわかるのはこの辺なので、ロハスとか丁寧な暮らしという方が主婦などは生物多様性と言われるよりわかると思います。実際に藤沢市自体が「S S T (サステナブル・スマート・タウン)」を含めてああいうスタイルを出してくるのは、それを意識しているわけなので、そういう意味では最先端を走っている地域ですけれども、これがこれまでの分析の中で何も言及されていなくて、いきなり出てくる。これは逆に言うと、実際に藤沢市にはいろいろな布石もあるので、うまくそこにつながってくるようにしていただくと、認知度を上げるための起爆剤ではないかと思うので、ぜひ、そこにつなげていただくといいのではないかと思います。

委員

藤沢市を取り巻く外部要因の「機会」と「脅威」を整理するときに、この整理よりももう少し考えた方がいいと思うのは、この表は「外部要因」と「内部要因」という形で整理しているけれども、例えば「脅威」の中の産業構造の変化みたいなものは、生物多様性をやっていく上で有効なものも結構あるのではないのでしょうか。必ずしも脅威には入らないのではないかと考えます。逆に上の方の人がいっぱい来て、若い持続可能性の高い消費者層がいるとか、高所得者層がいるというのは、そういった活動がやりやすい地域でもあると思うので、社会構造とか自然災害とか外部要因とか内部要因という整理ではなくて、両方あると思うので、そこは「機会」と「脅威」と両方見ていただきたいと思います。

それ以外に若干気になるのは、中段に「成長のための課題」とか「弱点補強のための課題」と書いてある内容が対策に見えるので、これは書き方かもしれないけれども、どちらかというと「施策」ではないかと思うので、

横軸と縦軸を書き合わせた課題というのを明確に書いた方が、その後にそれに対して何ができるかという方が理解しやすいかと思いました。

委員長 1つは資料2とのストーリー性をきちんと整合しないと、外に出て行ったときにわかってもらえなくなるので、わかりやすさというのは大事だと思います。

それから資料4-1、4-2は、いろいろご指摘があったので、もうちょっと詰めて検討してください。また、委員の方で言い足りない点等がありましたら、事務局にご連絡をお願いします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

委員長 次に、(5)今後の予定について、説明をお願いします。

事務局 (資料5-1参照)

スケジュール表については前回お示ししているものとそれほど変わっておりません。これからの検討委員会は2回ありますが、その間にグループワークを8月に行うことが決まっております。そして12月の第5回検討委員会で戦略は完成する予定です。

(資料5-2参照)

施策整理のイメージをまとめておりますが、資料4-2の後半の部分の整理の前段を今やっています。

(資料5-3参照)

きょう一番重要な話は、グループワークのことになります。第1回が8月9日(水)、第2回が8月25日(金)を予定しております。参加者はそれぞれの主体の方3名ずつ、市民団体3団体から各1名、それと8月10日号の広報ふじさわで一般市民6名を公募し、以上18名の方を6名ずつ3グループに分けて実施したいと思います。その際にファシリテーターは事務局側の予定ですが、日本大学、慶應大学の学生各3名の方を補助としてご推薦いただければありがたいと思います。基本的には「現状及び課題」で、課題解決の方法、具体的な政策といった形で進めていく予定となっております。また、内容については資料を基にご意見等がありましたら、事務局までお申し出いただきたいと思います。

委員長 ただいまの説明に対してご質問等ありますか。

委員 グループワークに我々も参加するのでしょうか。

事務局 オブザーバーでご参加いただければと思います。

委員 学生というのはボランティアなのか。それから学生に声を掛けたら、2回とも同じ学生なのではないでしょうか。そういった条件等があったら早めに連絡をお願いします。

それからこの中身が戦略の中にどのようにつながるのが重要です。

コンサルタント 実際には行動計画の課題についてご意見をいただきたいという目標でやります。施策をより具体化していった部分とか、施策につながるものまで出していただきたいと考えています。

委員 実施内容を見ると、「藤沢らしい生物多様性とは何か」とか、今、まさに議論している「生物多様性の課題」というのがあるけれども、委員会でやっているのと同じようなことをするのでしょうか。

コンサルタント 同じような部分がありますが、今回、ヒアリングをした方にもご参加いただくということで、既にご意見を持っている方、あるいは現状について情報をいただいた方も参加者の中に入りますので、スタートラインが一般の方という状態ではなく、そこから戦略をつくっていく上でのより具体的なことが出しやすい方をお願いする形にしました。

委員 そういうことならば、前段の部分までは委員会でできているので、それを示して「どういうふうにやったらいいと思いますか」と伺わないといけないのではないかとことです。役割を整理しておかないと、委員会でしているような議論になってしまうのではないのでしょうか。

事務局 その点は詰めてご提示しながら、相談させていただきたいと思います。

委員 公募の方というのは基準があるのですか。公募をしても全くの素人というか、ある程度の知識がない方だと難しいのではないのでしょうか。いきなりワークショップに入ってきてもいい意見が出せないのではないのですか。

事務局 基準は設けておらず、公募は先着順としておりまして、生物多様性に興味がない方、知らない方に入ってもらうのもいいかと思うのですが、恐らく生物多様性に興味のある方が先着順でご参加いただけると思っています。

委員長 そのあたりはファシリテーターがうまく誘導されるだろうと思います。スケジュール等についてよろしければ、4のその他ですが、何かありますか。

事務局 次回の検討委員会は9月下旬を予定しております。詳細については改めてご案内いたします。

委員長 以上で、検討委員会を終了いたします。

午後4時41分 閉会